

安静 (bed rest) 中の切迫流早産の妊婦に対する援助について

—患者はこう思っている！ アンケート調査より—

2階西病棟

○田内 美鈴 谷脇 文子 小松 真貴

西岡 睦代 森田 淳子

I. はじめに

当産婦人科病棟における入院患者のうち、切迫流早産によるものが全患者の3割強を占めている。これらの妊婦の多くは内分泌外来を含む産婦人科外来受診後の即日入院患者である。そしてその殆どは、自覚症状の無い場合も少なくない。入院前は通常の日常生活を営んでいたが、入院することによりベッド上安静を守らなくてはならない状況を迎えることとなる。

このような妊婦の基本的欲求は強く、心理面でも複雑であると思われる。そこでこれらの妊婦に対して、特に清潔、排泄の援助が充分に行えているか、又精神的、心理的不安をどの様に解決の方向に持っていくかということに着目し、アンケート調査を実施した。その結果から私達の行う援助の問題点を把握し、妊婦の心理について理解を深めることから、よりよい看護実践に移せることを目的にこの研究に取り組んだ。

II. 調査対象及び方法

昭和61年12月1日から昭和62年1月31日の期間中、切迫流早産で入院中の妊婦でベッド上安静を10日間以上経験したものの25名を対象とした。そのうち初産婦13名、経産婦12名である。

表1. 妊娠週数別調査対象

週数 人数	5W	6W	7W	8W	9W	10W	13W	16W	17W	20W	21W	24W	29W	30W	33W	36W	37W	計
	3	2	2	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	25名

方法は、記述方式を主としたアンケート調査を実施した。

回収率は、25名、100%であった。

III. 調査結果

清潔について、生活習慣の現れとして食後の歯みがき希望者2名があがっている。毎日のタオル清拭にも、手の届きにくい場所には介助してほしいとあった。そして、手の清潔に関しては、大便後の手の消毒や、手を洗い流したいという希

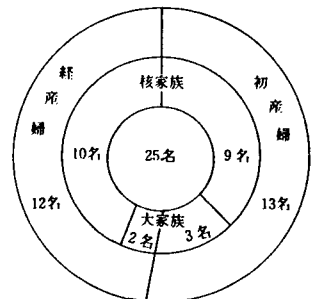


図1. 妊娠歴、家族構成別調査対象

望が出ており注目される。足浴に関しては定期的に1回洗ってほしいと6名が回答している。その理由として、足浴はとても気持ちが良い、洗ってもらった日は良く眠れたという意見がある。髪の毛の清潔は、シャンプーを週単位で回数として希望しているものがある。現状のままが良いとした者は2名である。又、少数である

表2. 清潔について(顔, 口腔内)

菌みがきの水が少ない	5名
食後に菌をみがきたい	2名
現状で満足	2名
スキナベープでかぶれる	1名

表3. 清潔について(からだ)

現状でよい	4名
スキナベープでかぶれる	2名
背中, 足などをふいてほしい	3名

が、結髪の希望は見逃すことができない。外陰部の清潔は、表6で示すように、清拭方法

表4. 清潔について(手, 足)

週1回洗ってほしい	6名
シャワーをあびたい	2名
現状で良い	1名
夜間よく眠れる	1名

表5. 清潔について(髪の毛)

週に1~2回	6名
月に何回か	3名
現状で満足	2名
結髪希望	1名

より洗浄法を望んでおり、現状での援助の効果を示す意見があったが、特に洗浄の方法に対する要求が多く、問題点であることを示唆している。

表6. 清潔について(外陰部)

①洗浄の時間

毎日~2日に1回洗ってほしい	4名
時間をきめてほしい	2名
現状で満足	1名

②方法

清拭	洗った気がしない	2名
	排便のあとにしてほしい	1名
	さっぱりする	1名
洗浄	冷たい	3名
	ていねいに洗ってほしい	2名
	さっぱりする	1名

③その他

石けんで洗ってほしい	
頼みづらいのでNSから声をかけてほしい	
内診の時洗ってほしい	

表7. ベッドパンについて

①大きさ

大きい方が安心して使える	10名
適当	3名
便の時、深さがほしい	2名

④使い具合

背中にこぼれる気がして気持ち悪い	7名
適当	4名
おしりがぬれる	4名
自分でするので疲れる	2名
大便がしづらい	1名

②形

適当	7名
----	----

③温度

冷たい時がある	11名
適当	1名

ベッド上安静を指示された場合のベッドパン使用については、表7を参照。程好い温度で、大きいベッドパンが使い良いことがわかる。しかし、背中に溢れるかもしれないという不安

を持つ者が全体の5割近くみられ、注目される。

室内の環境整備については、表8からわかるように、時間を決めて換気を充分に行い、ていねいにしてほしいという希望が多い。これについては、環境整備の実施法に個人差があるということがわかる。

①方法	人数	②時間帯	人数
ほこるので、そうじ機を使ってほしい	3名	午前中	3名
仕方が人によって異なる	3名	現状のままでもよい	3名
ベッド上をもっとていねいにしてほしい	2名	決めていけばよい	1名
窓を開放してほしい	1名	清掃時と重ならないようにしてほしい	1名
もう少していねいにしてほしい	1名	③その他	
手の届かない所を集中的に	1名	ゴキブリが多い	3名
		カーテンの長さがほしい	1名
		トイレ中にそうじの人が入ってきた	1名
		床頭台の中もふいてほしい	1名

赤ちゃんについての認識は、表9参照。全体では、順調に育って、丈夫で元気な赤ちゃんがほしいという意見が10名ある。初産婦では、嬉しいけれども不安があるという者が3名ある。

胎児について夫と話し合うことについては、初産婦では、現在の状態や超音波での映り具合と答えた者が5名、流産したくないと答えた者は6名あり、夫婦共に子供を望んでいる半面、半信半疑であるという意見もみられる。これに対して経産婦では、五体満足であろうか、誰に似ているかなど児のイメージ化が初産婦と異なって、より具体的な内容となっている。夫は妻に頑張るようにと励まし、支持的態度が現れているということがわかる。

表9. 赤ちゃんについて思っている事と夫との会話

	初産婦	経産婦
思っていること	順調に育ってほしい (6名)	順調に育ってほしい (4名)
	うれしい反面・不安が多い (3名)	かわいい (2名)
	実感がわからない (1名)	臨月で正常産をしたい (1名)
	胎動がわかるようになりたい (1名)	未熟児を生みたくない (1名)
	かわいい (1名)	上の子供のためにも兄弟がほしい (1名)
	一人はどうしても生みたい (1名)	生まれてから順調に育つかどうか不安 (1名)
夫との会話	現在の状態・超音波の映り具合 (5名)	五体満足な子供だろうか (4名)
	流産したくない (6名)	とにかくがんばりなさい (2名)
	赤ちゃんの性別 (2名)	どんな子供か、だれに似ているか (2名)
	退院後は協力する (1名)	赤ちゃんの性別 (1名)
	生まれてからの育て方 (1名)	子供の名前 (1名)
	半信半疑 (1名)	育児用品の準備・購入について (1名)
その他	無事の出産を望む	早く抱いておちちをあげたい

次に、気になること、心配又は不安に思う事については、図2で示すように、半数以上の者が胎児の状態と答えており、最も多い。経産婦は、上の子供のことが気掛かり、お産のこと、呼吸法、入院費用と答えていることが注目され、初産婦とは明らかに異なる具体的な事柄をあげていることがわかる。図3では、家族構成別にみると、核家族の妊婦に心配や気になることが多く、そのことから、家族との関係の在り方が、入院中の妊婦の心理的負担となっていることがわかる。職業の有無別にみると、有職者において、仕事が気になる、あるいは心配と答えた者は予測に反し2名であったことが注目される。

図2. 初・経産婦別 気になること・心配又は不安

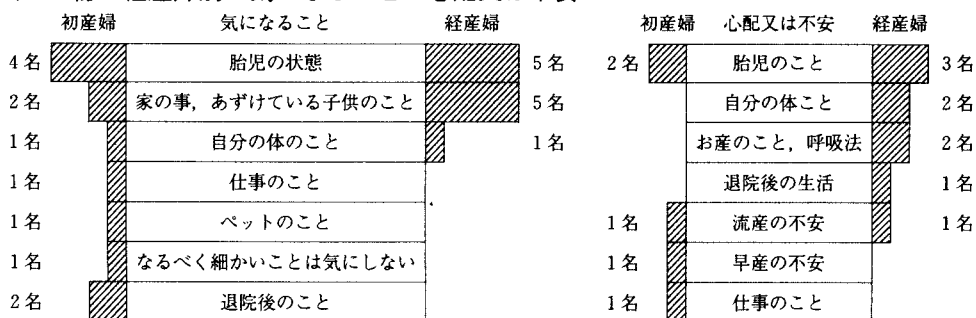


図3. 大、核家族別 気になること・心配又は不安

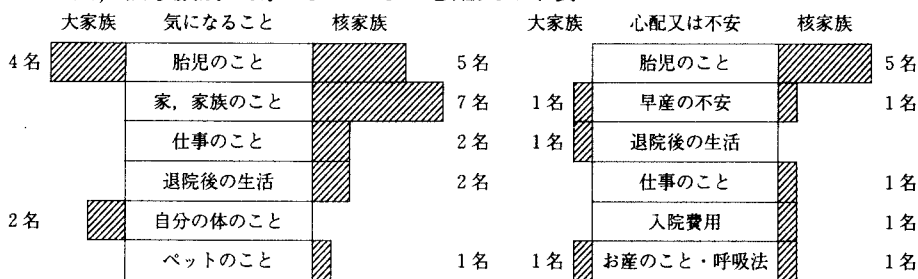
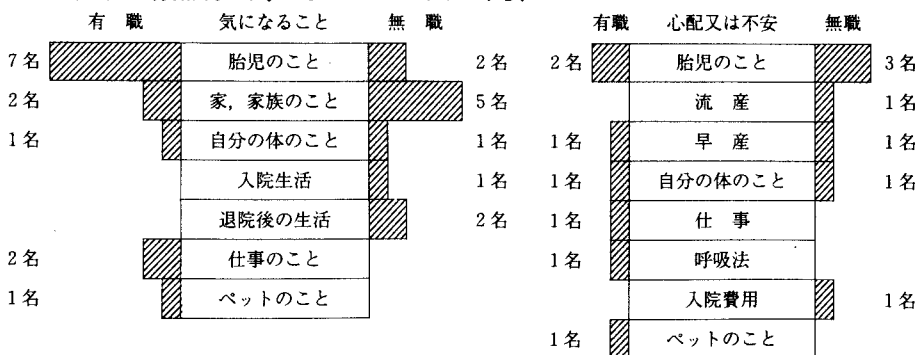


図4. 職業の有無別 気になること・又は不安



入院中の過ごし方では表10参照。雑誌、マンガを見るが12名で、次いでラジオとなっている。雑誌の多くは、週刊誌、月刊誌が多く、娯楽的なものを選んでいくことがわかる。

その他、入院生活で困る事、要望として、電話ができない、つわり時に給食が食べられず、食べたいものがあるがすぐに手に入らない、部屋に冷蔵庫がほしい、カーテンを開ける際には必ず声をかけてからにしてほしいなどがあげられている。

心配や不安なことの最初の相談相手の順位は、表11に示すように、医師、夫の順になっているが、無回答も半数近くあったことが注目される。

表10. 入院中の過ごし方

雑誌, マンガ	12名
ラジオ	7名
ティータイム	3名
ウォークマン	1名
同室者との会話	2名
利用していない(医師より禁止されている)	

表11. 心配又は不安なことを最初に相談した人

医師	7名 (専門家である)
夫	5名 (信頼している, 一番近くにいる)
実母	3名 (実生活に結びつく)
友人	1名
看護婦	1名
無回答	10名

IV. 考 察

患者は安静を守らなければならない状況の中で自分の生活習慣により近い援助を望んでおり、特に希望の多かった外陰洗浄や、足浴・洗髪については、今後実施回数を増やすと共にその方法を考え直す必要がある。

外陰洗浄に関しては、現在行っているハイアミン消毒液を用いた洗浄の他に石けん使用による洗浄も検討中である。

排泄については、プライバシーを守り、気兼ねなくスムーズに行えるように、カーテンに排泄中の表示をつけ、その開閉に注意をする。又、無理な体位、溢れそうだという不安に対し、可能な範囲でのベッド挙上を考えていく等の体位の工夫が必要である。現在、他の患者への気兼ねを少なくするため、同レベルの安静度の患者を同室としているが、この配慮は今後も続けていきたいと思う。

そして妊婦の不安や問題点を充分把握するためには、まず入院時のアナムネーゼが、重要である。私達は、患者をひとりの妊婦として意識して捕えることができ、得た情報を看護に生かさなければならぬ。そしてそこから、早期に看護婦と患者の相互の信頼関係を築き、夫や家族との橋渡しの役割りを果たさなければならぬと考える。

したがって、異なる背景を持つ個々の患者に合った看護を展開するには、どのような方向

づけをすれば良いかという点で、今回のアンケート調査は有意義であった。そして看護の原点を再認識することができた。

V. おわりに

率直な意見を期待し、記述式を中心としたアンケート内容としたが、患者の、質問の捕え方が様々であり、無回答も多く、書き辛さがうかがわれた。

今後は、この研究を生かし、安静の意味やその必要性を充分理解してもらう事を含めたパンフレットの作成を考えていきたいと思っている。

VI. 参考文献

- (1) 平野恵子：妊産婦の心理的特徴から妊婦ケアのあり方を考える。月刊ナーシング，VoL 9，p 52～56，学研，1984
- (2) 服部綾子：排泄介助を要する患者への“安楽”を考えた援助は，月刊ナーシング，VoL 11，p 64～69，学研，1983
- (3) 植田寿美子他：臥床洗髪の安楽性を考える。月刊ナーシング，VoL 11，p 90～95，学研，1983
- (4) 江守陽子：妊婦の看護における観察，月刊ナーシング，VoL 6，p 98～108，学研，1983
- (5) 松村はる監修：婦人科，産科，メジカルフレンド社，1983
- (6) 日野原重明監修：看護のための臨床医学大系，6 母性系，ほるぷ，1983
- (7) 村上元孝監修：ブルンナー臨床看護百科〔上〕，p 1～45，ひろ川書店，1978
- (8) 石川中・赤池陽訳：ライフサイクルからみた女性の心とからだ，医学書院，1986